

ふるさと教育 取組事例

学校名	出雲市立南中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
2	総合	わたしの考える住み続けられるまちづくりとは～出雲&京都&ミニ行動での出会いを通して～	稗原コミュニティセンター・稗原夏の縁日/乙立コミュニティセンター・乙立夏祭り/朝山コミュニティセンター・朝山文化祭 にっこり食堂・ひえばら森々くらぶ・出雲市社会福祉協議会・出雲市役所・京都市役所
ねらい		<p>○複数の体験から、持続可能なまちに関する情報を収集し、必要な情報を取捨選択したり、複数の情報や考えを比較・関連づけ、焦点を絞りながら整理したりし、持続可能なまちに必要なことについて自分の考えをまとめ、提案することができる。</p> <p>○課題解決に向けた自分の取組や状況を振り返り、得た知識や友達の影響、学習の中で出会った人や地域の方々との考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組むことができる。</p>	

1 取組の概要

1年生では、地域の魅力や課題について調べ学習を行い、地域活性化の企画を考えて個人発表を行った。2年生では、1年生で考えた企画をもとに、地域との関わりを深めるミニ行動を考え、企画・実施した。活動については、地域のコミュニティセンターと連携し、生徒と各センター長と一緒に協議し、内容や進め方について、検討を重ねた。また、活動資金はコミュニティセンターからお借りし、その資金をもとに運営した。利益が出たものについては、地域貢献につながる寄付先を検討し、社会福祉協議会や、こども食堂に寄付を行った。

「ミニ行動」の内容と寄付先について

【朝山コミュニティセンター連携】地域文化祭の場を活用。「フリーマーケット」、「射的やグッズ作成体験コーナー」を運営。利益は、地域の子ども食堂「にっこり食堂」に寄付。



射的コーナー。この他に、地域の方が作成したアクセサリ販売や、アクセサリづくり体験コーナー、フリーマーケット実施。「地域の子ども」が楽しめる場づくり。

【乙立コミュニティセンター連携】コロナで数年中止になっていた夏祭りを、地域に働きかけて再開。運営の手伝いやビンゴゲーム大会の実施。



地域住民と一緒に夏祭りデザインも行う。実行委員会にも参加し、意見交換。

【稗原コミュニティセンター連携】(①②の2班に分かれて実施)

① 地域の「夏の縁日」の場を活用。「星空カフェ」と「射的」を実施。利益は社会福祉協議会に寄付。



射的コーナー・星空カフェに合わせ、来場者に「住み続けられるまち」に関するアンケートの実施。

② 子ども食堂「ひえばら森々くらぶ」の実施日にあわせ、地域の米販売実施。また、子ども食堂の手伝い(調理・接客・片付け)を実施。

地域の方が育てたお米を販売。来場者に、地域の農作物に関するアンケートを実施。



2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

- ・地域の魅力を再発見し、ふるさとへの愛着を高める。
- ・地域の課題解決や活性化に向けて自分にできることを考え、行動しようとする貢献意欲を高める。

(学力育成の視点から)

- ・地域の方々との協働を通じてコミュニケーション力を高め、課題解決に向けた計画や実践を通じて主体性と実行力を養う。
- ・調査や発表の過程で情報を収集・整理し、自分の考えを他者に伝える力を高める。
- ・将来の進路を考えるきっかけにし、「自分が社会にどのように貢献できるか」を考える力を育成する。

*取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。

(このデータをHP等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。)

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

この取組を通じて、生徒は地域の魅力を再発見し、ふるさとへの愛着を深めることができた。自分たちの地域のよさを他者に伝えたいという思いが育ち、さらに、地域の課題解決や活性化にむけて、自分にできることを考え、行動しようとする貢献意欲が高まったと考える。将来にわたって、地域社会に関わり続ける姿勢を育む時間になった。

（学力育成の視点から）

（1）人間関係形成・社会形成能力の高まり

地域の方・仲間と協働する活動を継続的に経験することで、自己表現力、他者に働きかける力の向上。

（2）課題対応能力の育成

課題の発見から企画立案、改善まで一連の経験を積むことで、主体的に課題を解決する姿勢が育った。特にミニ行動では、生徒が自ら判断しながら行動する力が高まった。

4 課題や今後の展望

明らかになった課題として

（1）課題設定の深まりのばらつき

必要感のある課題を選ぶことはできても、客観的な視点から課題を深く探究する力には個人差が見られる。

（2）計画の具体化と改善力

企画運営の経験は積んだが、改善点を自ら見つけて次に生かす部分は、学年を通して課題として残った。

（3）キャリア形成との接続

探究学習そのものの成果は大きかったが、将来の進路選択との結びつきは弱く、QUの結果からも、キャリア面については課題が残る。

今後の展望として

- ・探究学習と進路学習をより密接に結びつける指導の工夫。
- ・地域との協働体制を安定的に維持し、活動の継続性を高める。
- ・生徒が自らの学びを振り返り、将来と結び付ける場の設定。
- ・1～3年生の学びの接続の強化。探究の深まりを段階的に支援する。

本年度の地域探究学習では、生徒が地域の一員として主体的に行動し、他者と協働する中で多くの学びが見られた。一方で、課題設定力の深まりや、キャリア形成への結びつきなど、改善が必要な点も明らかになった。これらの成果と課題を踏まえ、次年度以降も、地域とともにある学びを推進していきたい。学校と地域が一緒になって活動することで、生徒の学びの可能性をさらに広げていきたいと考えている。

【生徒発表資料よりスライドより一部抜粋】

【出雲市社会福祉協議会HPより】

企画名： 夏休みの思い出
夏休みの思い出を振り返る！

実施場所： 神前コミュニティセンター
神前コミュニティセンター

出雲市政まとめ
若い人も活躍の場
① 学びの場
② 交流の場
③ 体験の場

目的： 地域を愛する、小さい子供 → 周りを元気にすること
中学生で夏休みの思い出を振り返ることによって

日時： 8月14日（木）の18:00～20:00

地域でのボランティア活動・修学旅行を通して
住み続けられる街にするためには…
地域の現状や課題にあった活動をする。
僕たちのような若い年齢の人たちが
地域に対して行動をして
活気もつけていくことが大切だと考えた。

「とっておきの京都」プロジェクト
京都や近畿圏の歴史と文化、自然の魅力を発信・活用することにより、地域を元気にする。観光客の誘客を促進させ、観光地の活性化を図るとともに、人と人との新たな交流を生み出し、地域の活性化に繋げることを目的とした活動の取り組みのこと。

京都観光が目指す姿
・市民の暮らしの豊かさの向上
・地域や社会の課題解決
・SDGsの達成に貢献し、
感染性や災害など様々な危機や環境問題に対応していく
【持続可能な観光】を目指す

南中学校2年生「地域のためにミニ行動」 緑日の収益を赤い羽根共同募金へ！

社会福祉協議会
出雲市共同募金委員会です！
出雲市立南中学校の2年生は、総合学習で「住み続けられるまちづくり」をテーマに「地域のためにミニ行動」を企画。神前一帯・精進三橋のみならず、更に開催された緑の日で、一環は筆力フェ、三環は財政的支援をいただきました。この収益の活用先を考えた上で、赤い羽根共同募金が地域の課題解決に取り組み団体を選定する「受入人を受取る募金」となった生徒たち。このたび「より良い地域づくりに向けてはいい」と、出雲市共同募金委員会へお願いしていただきました！
いただいた募金は、東年度に市内で行われる福祉活動の支援等に大切に使用させていただきます。ありがとうございました！

* 取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。

（このデータをHP等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。）